

## 中耕・培土と雑草防除

### ★特に重要なポイント★

- ・ 根の発達促進による生育促進や雑草防除、倒伏防止のために中耕・培土を2回実施しましょう。夏期の干ばつにも強くなります。
- ・ 中耕・培土は、適期から遅れないように作業を進めましょう。

### 1 中耕・培土の方法 ～中耕・培土は遅れずに～

#### (1) 培土の時期と培土位置のめやす

中耕・培土	大豆の生育	は種後日数	培土の位置
1回目	本葉2枚目展開頃（主茎長：12～15cm）	20～25日頃	子葉節まで
2回目	本葉5枚目展開頃（主茎長：地際から20～30cm）	35～40日頃	初生葉節まで

- 中耕・培土は開花始め（は種後50日頃）までに完了する。開花期以降の培土は根を切ってしまう、生育抑制や落花・落莢を招く恐れがあるので行わない。
- 降雨が続き、排水性が悪いほ場の場合は、1回の培土で作業を仕上げる。

#### (2) 培土の留意点

- ① 培土作業は梅雨が本格化する前に実施する。
- ② 培土の高さは子葉節までとする。培土が高すぎると収穫ロスや汚粒発生を招きやすい。
- ③ 中耕・培土作業の後、スムーズに排水できるよう畝間の溝を明きよや排水口に連結する。
- ④ 株元がへこむと培土の効果が下がり、水が溜まって病害等の原因となるので、株元までしっかり覆うように確実に培土する。

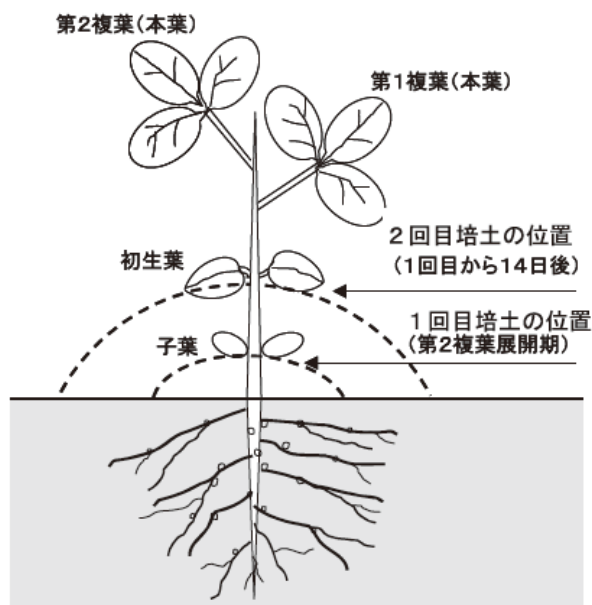


図 培土の位置

## 2 湿害の防止 ～明きよ・暗きよの管理～

- 降雨前後に排水口や明きよを点検し、排水が滞らないよう必要に応じて手直しを行う。
- 水がたまった場所は溝を切って明きよにつなげ、速やかに排水されるようにする。
- 降雨が続く場合は湿害を防止するため、暗きよ栓を開放する。

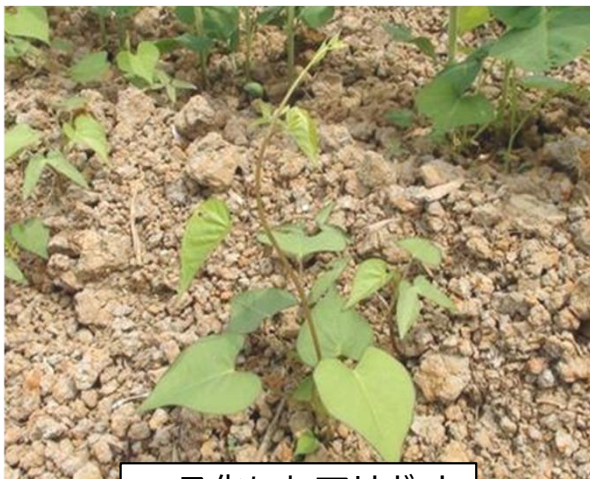
## 3 追肥

湿害により葉の黄化や生育不良の症状が見られた場合は、生育回復のために速効性肥料を追肥する。

肥料の種類	施肥量（窒素成分 kg/10a）	施肥方法
速効性肥料（硫安等）	1～3	停滞水を除去後、培土時に追肥する。

## 4 雑草防除 ～2回の中耕・培土で発生を防ごう～

- 繁茂したほ場内雑草は大豆の生育抑制や収穫作業の支障・汚粒の原因となるため、雑草が大きくなる前に中耕・培土を実施する（土壤中にしっかりと埋没させることが重要。雑草が小さい時期の方が埋没させやすく効果が高い。）。中耕・培土で雑草が抑えられない場合は茎葉処理除草剤を使用する。
- 非選択性茎葉処理除草剤を使用する場合は、大豆に掛からないよう飛散防止カバーを使用する。周辺の水田への飛散防止に十分注意する。
- アサガオ類はつる化すると防除が困難となるので、残った個体は早期に抜き取りを行う。抜き取った後、ほ場内に放置すると結実するため、ほ場から持ち出して処分する。



つる化したアサガオ



除草剤や中耕・培土で体系防除を行い  
最後は大豆の陰でアサガオの生育を抑える

農薬を使用する際は必ず最新の登録内容、使用方法・注意事項等を確認し、内容を遵守する。